移　住　都　市

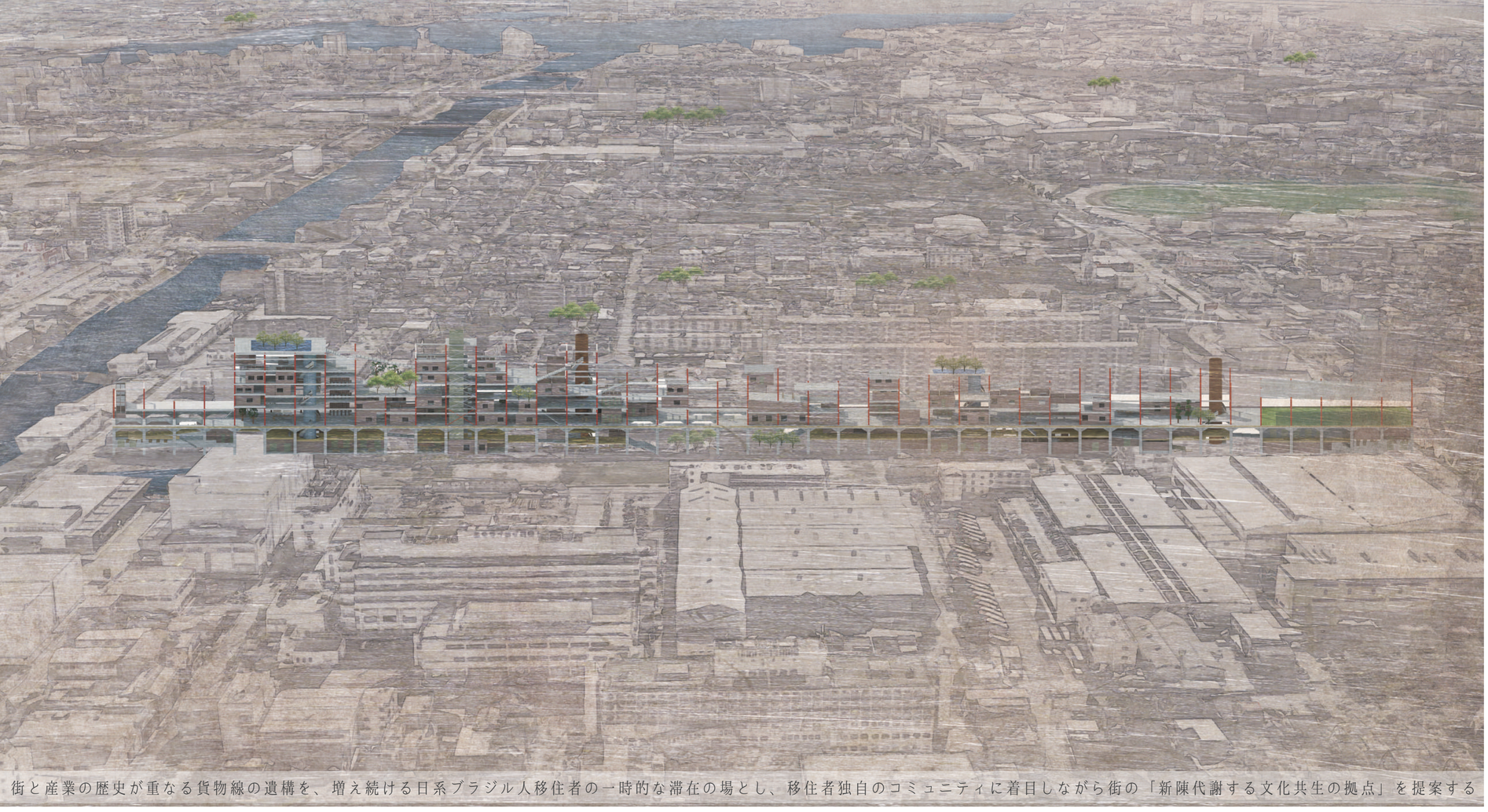
- 土木遺構の文化共生拠点としての再生 -

かつては街の発展の核であり、現在は放棄された貨物線の遺構に日系ブラジル人の「移住都市」を提案する。

名古屋市港区は、港に面する工業地帯であり、日系ブラジル人の移住者数・居住者数が全国有数である。

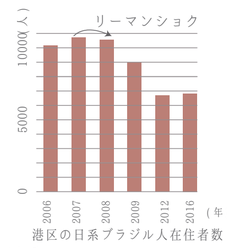
移住都市は、増え続ける「日系ブラジル人移住者」の一時的な滞在・教育・文化発信の場である。

土木遺構に、日系ブラジル人移住者の生活力やコミュニティの強さに着目しながら、「新陳代謝する文化共生の拠点」を提案する。



街と産業の歴史が重なる貨物線の遺構を、増え続ける日系ブラジル人移住者の一時的な滞在の場とし、移住者独自のコミュニティに着目しながら街の「新陳代謝する文化共生の拠点」を提案する

□ 01 対象敷地 愛知県名古屋市港区 / 日系ブラジル人労働者の多い工業地帯



港区の日系ブラジル人在住者数

対象敷地の名古屋市港区は、名古屋港に面している工業地帯である。
日系ブラジル人労働者が多く、リーマンショックで一時は減ったものの、再び増え続けており、根強いコミュニティが存在する。

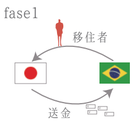
□ 02 背景　日系ブラジル人移住者との文化摩擦 / 生活力とコミュニティ

- 「顔の見えない定住化」という文化摩擦 -

外国人労働者がそこに存在しつつも、長時間労働ゆえの社会生活を欠いているが故に地域社会から認知されていない。ex. ゴミ問題、自治会の不参加

- 国境を超える主体的側面と生活力やコミュニティの強さ -

fase1



若い労働者・一時的な労働移民が主。海外送金と母国への帰国意思が強い

fase2

新しい環境における双助の必要性に基づいたネットワーク

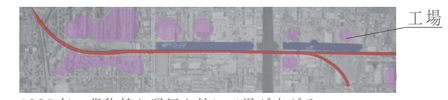
fase3

家族の呼び寄せや教会、店、飲食店を持つエスニックコミュニティの出現

fase4

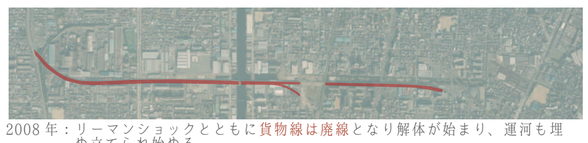
表裏一体の移住と定着

□ 03 貨物線と運河と街の変遷



1985 年：貨物線と運河を軸に工場が広がる

1996 年：周辺の団地には、工場で働く日系ブラジル人労働者が多くすみ始める



2008 年：リーマンショックとともに貨物線は廃線となり解体が始まり、運河も埋め立てられ始める。

2017 年：廃線となった貨物線は、道路の上部は解体され、街の中に「遺構」として偏在する。周辺に公共施設が集まり、かつての運河がわずかに残っている「301m」の高架を対象敷地として選定。

「貨物線と運河」を核として工場・公共施設・日系ブラジル人が住む団地が広がってきた。それらを日系ブラジル人コミュニティに着目しながら、「街の文化共生の拠点」として再生することを提案する。

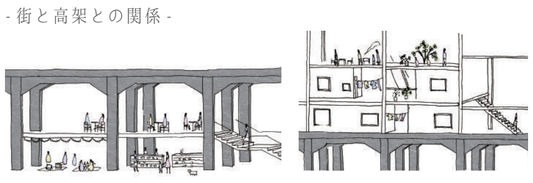
□ 04 提案　移住都市　日本とブラジルの緩衝帯による文化共生

nowadays

proposal

日系ブラジル人労働者が移住後、日本人コミュニティの中に飛び込むのではなく、一時的に住まう緩衝帯のような場を提案する。

- 街と高架との関係 -



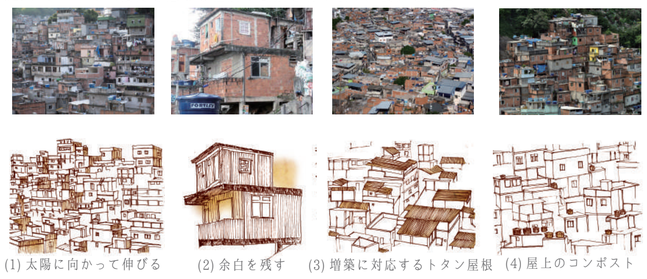
地上に近い高架下は街との接点

地上から離れた高架上では日系ブラジル人のプライベートな場

高架下を街との接点、高架上を日系ブラジル人のプライベートな場として考える。

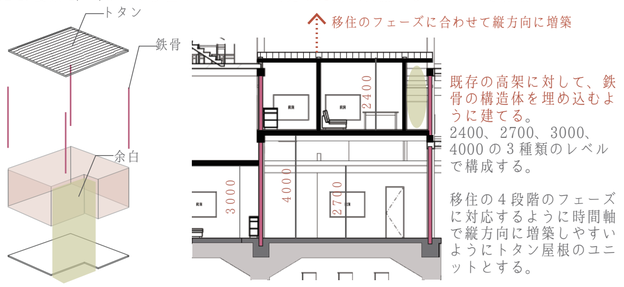
□ 05 新陳代謝する風景　移住者の生活力・コミュニティに着目したユニット・運河による新陳代謝

01: ブラジルの生活力を感じる住居の風景を切り取り、要素を抽出



(1) 太陽に向かって伸びる　(2) 余白を残す　(3) 増築に対応するトタン屋根　(4) 屋上のコンポスト

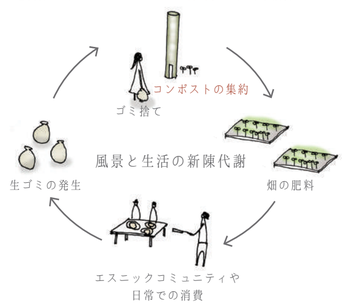
02-1: 要素 1/2/3 より移住のフェーズに対応した新陳代謝するユニットを作成

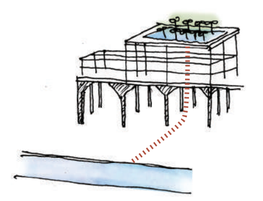


既存の高架に対して、鉄骨の構造体を埋め込むように建てる。
2400、2700、3000、4000 の 3 種類のレベルで構成する。

移住の 4 段階のフェーズに対応するように時間軸で縦方向に増築しやすいようにトタン屋根のユニットとする。

02-2: 要素 4 よりコンポストの集約による風景とサイクル　03. 新陳代謝する運河



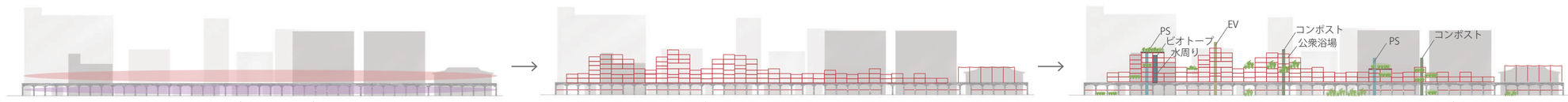


運河はピオトーフトして風景に再編
ピオトーブは防火水槽としての役割を持つ

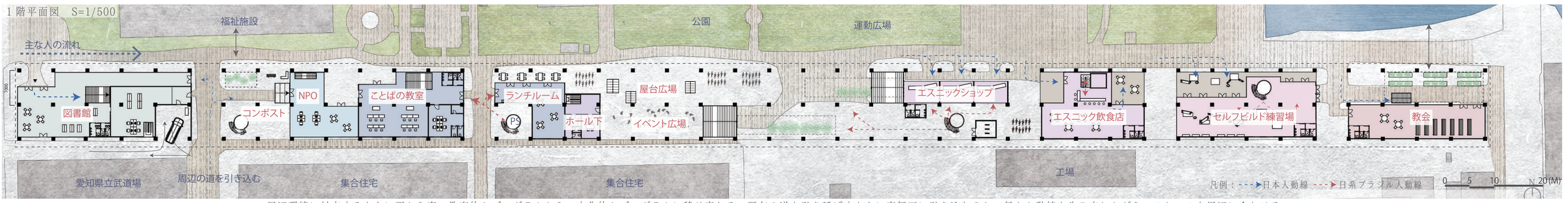
既存の高架を活かしながら、高架を付加していく。高架の下は、吊るように、高架の上は既存の柱割に合わせて構造体を立ち上げる。

コンポスト、PS、EV、階段などの縦動線を挿入する。それらは日系ブラジル人のための動線として使われ上下のプログラムをつなぐ。PS やコンポストは生活を支えるものとなりながら、ビオトープや畑の核となる。

□ 06 構成ダイアグラム　水平方向に広がり、解体された貨物線遺構。構造体を活かしながら鉛直方向に再生

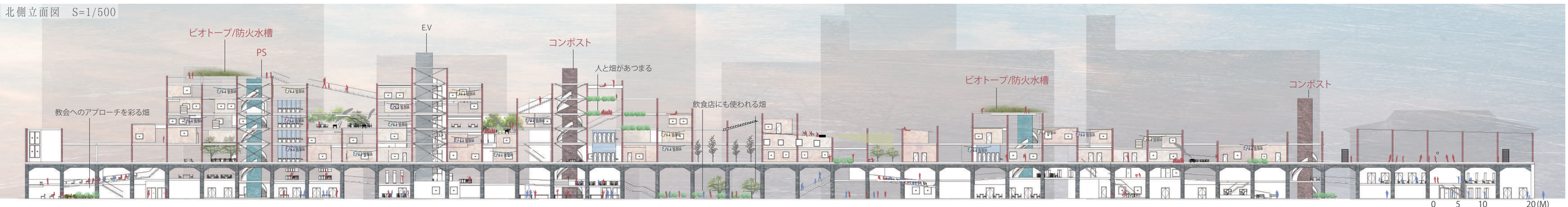


1 階平面図　S=1/500



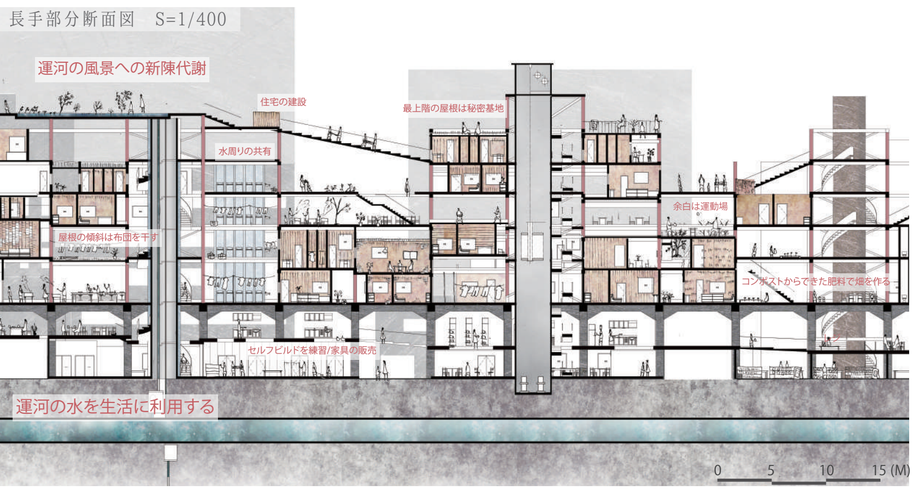
周辺環境に対応するように西から東へ教育的なプログラムから、文化的なプログラムに移り変わる。既存の道を引き延ばすように高架下に引き込むことで新たな動線を生み出しながら、スケールを周辺に合わせる。

北側立面図　S=1/500



短手断面図　S=1/400

長手部分断面図　S=1/400



街の遺構は、変わり続ける文化共生の拠点として再生され街に影響を与えていく